

例会 NO 1 2 4

No 3- 38 1993. 4. 28 発行



1992~1993RIテーマ  
まことの幸福は  
人助けから  
RI会長 クレフ・ツクターマン



# Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1992~1993年度クラブ目標 “地域を見つめよう……地域にロータリーの輪を……”

## 第124回例会報告 (4/21)

司会 SAA 村上 久

☆点 鐘 会長 赤尾 恭雄

☆ロータリーソング 「日も風も星も」

ソングリーダー SAA 佐伯 和廣

☆お客様紹介 会長 赤尾 恭雄

小川 一夫様 (東京多摩RC)

野沢麻衣子様 (交換学生)

野沢 久子様 ( 母親)

☆会務報告 会長 赤尾 恭雄

\*地元企業の例会ご招待について

例会ご招待のご案内について下記の方よりご出席の返事がありました。

・5/19 磯田 浩様

学校法人 大妻女子大学社会情報学部長

・5/26 吉兼三郎様

(株)多摩テレビ取締役社長

\*計報 地区広報委員長松沢寅男様夫人ご逝去の報に接しましたので、当クラブとしては直ちに弔電をもってお悔やみ申し上げました。

\*相模原グリーンRCチャーターナイトについて、既にご案内のとおり、同クラブCNが5/1(土)千代田平安閣相模原(橋本駅前)にて開催されるが、近隣クラブでもあり多数の登録をお願いしたい。特にチャーターナイトを経験していない比較的新しい

会員に、チャーターナイトの雰囲気でもロータリーの良さを感じとって欲しい。

☆幹事報告 幹事 遠藤 二郎

\*例会変更のお知らせ

東京多摩RC(火曜例会)

5/11→5/13(木)東京稲城RC創立20周年記念行事に振替。尚、当クラブも5/12例会を全員登録にて稲城RC創立20周年記念行事に振替です。

☆次年度会務報告

次年度会長 横倉 瞬三

去る15日、会長エレクトセミナーが開かれ次年度について研修が行われました。次年度RI会長、ロバート・バース氏のテーマは「行動に信念を、信念は行動に」となりました。本日例会終了後次年度理事会を開きます。

☆委員会報告

★出席委員会 出席委員長 宮本 誠

[出席報告]

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	44	37	1	6	86.36%
前回訂正	45	37	3	5	88.89%

[本日のメイクアップ]

田中 実 (4/20東京多摩RC)

〔本日欠席届者〕

萩生田茂夫、伊神 稔、猪股 末男  
城倉 正博、隅 耕造、若林 滋和  
★親睦委員会 親睦委員 大松 誠二

### ニコニコBOX

赤尾 恭雄 野沢麻衣子さんようこそ。楽しい話を期待しています。

遠藤 二郎 お客様ようこそ。

杉田 誠 野沢さんようこそ。

海野 栄一 寒いので。

奥田 文夫 今日は寒いですね。

菊池 敏 大きなテーブルにこわい顔が2つ並んでいたの。

高村 弘 今年は大分長い間桜の花を楽しみました。

橋口 洋三 久しぶりに例会場が6F、ホテルオークラに変わったの。

大熊 将夫 杉田親睦委員長が受付でにこにこしていたの。

藤本 吉文 野沢麻衣子様ようこそ。

吉沢 洋景 寒いのか、温かいのかははっきりしてもらいたい。

以上合計 19,000円

~~~~~ 【3分間ミニ情報】 ~~~~~

### 『ロータリー財団奨学金事業』

菊池 敏

これらの事につきましては  
手続要覧の165ページから  
179ページにロータリー財団の組織  
および目的の内容が記載されて  
おりますが、その内容と申します  
のは



1. 国際親善奨学金
2. 研究グループ交換
3. 開発途上国で奉仕する大学教員のための補助金
4. 同額補助金
5. 保健、飢餓追放および人間性尊重補助金
6. ロータリーボランティア補助金
7. ポリオプラス

等々7つの事業について地区委員会等の各委員長をはじめ小委員会の委員長そして経験豊富なロータリアンの方々によって成り立って

おります。さらにこれらの総合的目標は、博愛、慈善、教育または人道的という特質をもつ明確かつ効果的なプロジェクトの促進を通じて、さまざまな国の国民の間に理解と友好的関係を助長することであるとのことです。

以上のような基本的なことに関してロータリー誌等の機関誌の中に各地区のロータリアンの方々からいろいろためになるお話が時々載せられておりますので参考にして頂ければよろしいかと思われます。

### 『ロータリー財団月間』

風間 茂穂

3分間でロータリー財団月間のことを述べるとすると、募金月間ということになるかと思えます。言う迄もなくロータリーは非営利財団法人で、困った人や有意義なプロジェクトに対し世界的な人道主義に基づき補助金を授与し、大学生、教師、事業及び専門職務にたずさわる人の国際交流に教育的補助金を提供する。



その目標は国際レベルの人道的教育的プログラムを通して世界理解と平和を達成することです。ロータリーは世界最大級の国際育英財団ともいえ、全世界のロータリアンの寄付金で運営され国際教育事業の他、ポリオプラス、3H同額補助金など、保健、福祉、厚生的な事業も実施。最近では全世界から、ポリオ追放のための事業に2億3700万ドル以上の募金を集め、ユニセフと提携して、幼児へポリオ・ワクチン接種の活動を推進中。いずれにてもロータリー活動をするために必要な基金を集中的に集める月のことをいい、具体的には11月がその月にあたります。

~~~~~ 【卓話】 ~~~~~

### 『世界青年の船』(4/14 講演)

ロータリー財団奨学生 副田 景子様  
本日は私事ではありますが、「第5回世界青年の船」事業で体験した事を述べたいと思っております。今回は参加青年ではなく、通訳兼管

理部という立場で乗船致しましたので、参加青年が味わうことは大分違うとは思いますが、私個人が見た又は感じた事を含めながら日本人であることを念頭におきつつ、真の国際人になる為には何が必要であるのか、



学んできたことを紹介させて頂きたいと思います。まず「世界青年の船」事業は、日本と世界各国の青年の相互の友好と理解を促進し国際的視野を広げ、国際協力の精神の育成と実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮できる青年の育成に資すると共に、参加青年による青少年健全育成活動への寄与を期待して、総務庁が昭和63年度が実施しているものであります。

今回はハワイ、サンフランシスコ、ヴェネズエラ、パナマ運河を通り、ドミニカ共和国、コスタリカ、再度パナマ運河を通過してハワイ、そして日本へと大型客船である「にっぽん丸」で廻って参りました。「世界青年の船」は隔年で西側航海と東側航海を行い、2年で世界一周をすると言うようになっております。今回は西廻りでしたので、参加者もオーストラリア、バブアニューギニア、西サモア、アメリカ、ニュージーランド、ドミニカ共和国、チリ、コスタリカ、エクワドル、メキシコ、ウルグアイ、ヴェネズエラそして日本からで、合計270名で62日間、船の中で共同生活を行いました。

さて、私の今回の仕事は成田に参加青年達を出迎える事で始まり、東京見物、施設見学、ウルグアイとアメリカの青年達をつれての愛知県への地方旅行の同行、そして最後に総理大臣表敬での通訳で国内活動を終わりました。特に宮沢総理を表敬した際、約30分でしたが総理のお言葉と参加青年代表の挨拶があり、各国代表への記念品贈呈が行われ、緊張していたせいか、すぐ終わった印象を受けました。しかしその緊張も総理の「ジョーク」や愛嬌の良さでほぐされた様でした。ここで国際人として通用する為の1つとして、緊張した雰

囲気の場所でも多少の愛嬌は忘れない様にすることを学びました。

船内での私の仕事は、総務庁からの人達と他省庁から出向して来た人達と通訳の合計20名で成る管理部としての仕事でありました。主に管理部カウンターでの物の貸し出し、企画、会議などの翻訳および通訳などと参加青年側と管理部側とのかけ橋の役割りをしていました。特にカウンター業務は大変でした。かつては参加青年でありましたので、相手側の言っていることがいたいほど理解できるからです。がそういう仕事では何より客観性・中立性が必要と、大学で親しくさせて頂いている鳥飼久美子先生の助言を思い出し、乗り越えることが出来ました。一番勉強になったのは、ラテン諸国の人達とのやりとりでありました。特徴として彼らは陽気であり、その場限りで後のことはあまり気にしないという気質の持ち主です。私ははじめ彼らのそれが理解できなく、何回も頭にきました。陽気だけならよいのですが、行動が遅くいわゆる自分達さえよければといった自分勝手の処が目立ったのです。又すぐに怒る。しまいには通訳をきちんとし終えた後、個人的によく口論しました。しかし、時が経つにつれ、彼らには裏が無く、例え何回も口論したとしてもその場かぎりのぎくしゃくであり、言いたいことを素直に述べ、根っからの陽気の持ち主であるということが分かったのです。この時ほど会議通訳で日本のトップクラスである村松増美さんの強調する「文化の違いを踏まえた通訳」という言葉を強く感じた事は無かったと思います。通訳は「言葉ではなく心を訳す」と実感しました。ここでも国際的になるという事は、あるいは国際社会に生きるという事は、異質なものと否応なく日常的に接触し、かなりぎくしゃくしたり、不愉快な思いをしたり、お互いに我慢を強いられたりする事であると再認識しました。

通訳は、もう一人英語の学生通訳と、プロのスペイン語通訳の3人で最初の1週間以外はシフト制で行われましたが、カウンター業務を苦として感じたことはおかげさまで一回もありませんでした。

仕事の事ばかりではなく、私にとって「おいしかった話」を最後に述べたいと思います。食べ物に関しては、ドミニカ共和国で食あたりと疲労で3日間倒れた時以外はすべて美味しくいただきましたが、その美味しいではない、3つのラッキーだった話をさせて頂きます。まず最初に、今回のにっぽん丸のキャプテンが前回私が乗船したときと同じであったため、ちょくちょくキャプテン室をたずね色々貴重なお話をして頂いたり、機関長、通信長、1等航海士を含む何人ものクルーと非常に親しくさせて頂いたことです。特に私が管理部の中で最年少であった為かもしれませんが、時間があればクルーの所に邪魔しに行っていました。またその為2つ目のラッキーである素敵な星空や海を見る時、よくブリッジに足を運びました。星空は口で表すともったいない位に美しく、日本では見えない南十字星を含めて、大熊座、オリオン座、北斗七星、昴、火星、ベテルギウス、リゲル、スピカなどが見え、しかもとても近くに感じられこの上ない喜びに浸ることができました。海に関して同じで、日本海、太平洋、大西洋と海の色がそれぞれ変化し、水平線がしっかり見え、又太陽がそこに沈む瞬間にしか発しないグリーンレイというこの世で最も美しい色とされている「緑の光」も見る事が出来ました。62日間も海の上で飽きるのではないかと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、大自然は人間が思っているほど単純ではなく、変化するものであり、それを毎日見ている飽きる事は私にはありませんでした。船長は「数え切れないほど航海をしたが、海はその都度表情が違う。笑ったり泣いたりするものだ」と話してくれました。私はそこまでは言い切れませんが、2回船の長旅をした結果、少しは感じとれるのではと自負しております。さて3つ目はパナマ運河を2回も通過したということとです。

私はこれから海外で勉強を続ける予定ですが、今回この事業に参加させて頂いて、管理部と云う中で、社会の縮図を体験したり、自分では訪れることがなかったラテンアメリカを訪れ、海外生活のアビタイザーとしての船内での外国青年達との共同生活をしたり、色々な人と出会い、又通訳として様々な貴重な経験をしたと思っております。これらの事を心の片隅におきながら、シンガポール出発までの2ヶ月の準備期間を過ごしていきたいと思えます。

### § 書籍から近ごろ感じたこと §

奥田 文夫

「人間性をとりもどすために、われわれは生活をもう一度根本から考え直す必要があると思われる。社会全体についてはどうしようもないなら、せめてその中で受動的に流されっぱなしだった自分自身の生き方だけでも、自分で納得のいくものに組立て直したい。」

これは中野孝次著、「清貧の思想」の中の一節である。

バブルがはじけた。売上げが半減した。資産が激減した。アツと言う間に世の中が逆転し、気が付いたらマイナスの泥沼にはまり込んでいた。

身の回りにこうした事例が多発し、日本人として、ロータリアンとして、どう対応したら良いのか混迷している時、この著作を手にした。この本がベストセラーになるとは驚きである。内容は固くて難しい。良寛や蕪村や兼好の思想、生き方に帰依できるであろうか。

清く生きれば貧しくなるのか、貧しくなっても清く生きなければならぬのか、心に問うとこれは難しい。

ロータリーの仲間がバブルに打ちのめされた時、友人として助けるのか、見殺しにするのか、あざ笑うのか、自分自身の生き方としてこの本は示唆に富んでいる。



## 東京多摩グリーンロータリークラブ

会 長：赤尾恭雄  
幹 事：遠藤二郎  
会報委員長：奥田文夫

副委員長：津守弘範・委員：北村幸彦  
杉田 誠・佐伯和廣・隅 耕造  
小島周二郎

事務局：東京都多摩市落合547  
多摩センタービル7F  
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

\*例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤバンケットルーム

\*例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30